

保育カンファレンス「自ら即即“反省”カード」活用案内書

- ◎ 保育カンファレンスが有効に機能するには？ 「話の具体性」と「発言の対等性」が必要です。
- ◎ 「話の具体性」を実現するために、従来は事例を活用してきました。そのよさについては申し上げるまでもありませんが、逆に事例の準備に負担感を抱く場合もあります。そこで、写真を活用してみてもいかがでしょうか。写真とそれにまつわる話を提供することで具体性を実現していきます。
- ◎ 「発言の対等性」が保障されるためには、管理職やベテラン保育者が導くという「伝達型」からの脱却が必要です。そこで、管理職等はファシリテーターや板書役を担い、各保育者のよさが発揮される状況づくりを行います。
- ◎ 以上のような環境が整った上で、建前でなく本音で話すことを推奨していきます。**保育上の問題意識**について保育者自身の内面をさらけ出す必要があるからです。そして、相手を批判したり優劣を競おうとしたりしないで、相手の意見が間違っていると感じた場合でも、それをよい方向に向けて建設的に生かす方向を大事にします。**ポジティブな発言を多くすること**です。そして、「正解」を求めようとしないで、**多様な意見が出されることを目指し**、まともになくても時間で終わりにすることが重要です。つまり、**多様な視点に触れ、自分の視点に揺らぐことに意味がある**からです。
- ◎ 建前でなく本音で話すことを推奨する
- ◎ 相手を批判したり優劣を競おうとしたりしない
- ◎ 相手の意見が間違っていると感じた場合でも、それをよい方向に向けて建設的に生かす方向を大事にする
- ◎ 「正解」を求めようとしない
- ◎ まともになくても時間で終わりにする



上記の条件が満たされない慣れない時期には「自ら即即“反省”カード」を活用します。発言した直後に「即」自身の発言を振り返り、心情に近いカードを「即」出します。「建前でなく本音で」とか「批判しない」とか「建設的に」などの発言に至らなくても、すぐに“反省”してカードを出せば和やかな雰囲気維持されます。しかし、いつまでもこのカードを使うことを想定しているわけではありません。参加する方々の意識が上記の条件に向かっていくにつれ、カードを使わなくなっていくのが理想です。次ページにカードがありますので、まずは使って、みんなでわいわい話をしてみてください。



指導的だった～

批判した～



いい感じじゃね



結構いいこと
言ったかも



まわりを気にした～



本心じゃない
たてまえっぽい



素直になれてる

余計なこと言った

